

厚生労働科学研究費補助金  
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）

研究1：NICU及びGCU入院新生児への医療・コメディカルのサービス向上のための研究（2年度）

分担研究者 赤平 百絵（国際医療研究センター病院 小児科）

研究要旨：新生児治療室に入院した児（以下、入院新生児）は、医療介入や出生早期の母子分離などにより、発育・発達の問題に加えて社会的問題が顕在化することが多い。それら入院新生児やその家族を支援するために、多種専門職における医療サービスの介入や充実を図ることは重要である。そのため、医師・看護師・助産師に加え、コメディカル（薬剤師、理学療法士、臨床工学士、放射線技師、臨床検査技師）の子ども虐待防止の試みの参加と患者介入への啓蒙を行った。初年度は服薬指導、看護師と連携した理学療法の実施、在宅呼吸器療法の支援、放射線技師の頭部外傷の早期発見などの潜在的医療サービスを開拓することができた。2年度は、小児薬物療法認定薬剤師の配置や服薬指導の検討、デベロップメンタルケアや家族中心のケアを促進するためのポジショニングシートの作成、在宅呼吸器療法の家族支援の症例検討、頭部外傷（Abusive Head Trauma）CT撮影の後方視的観察研究など、一層内容の深い研究活動になった。コメディカルの参加は、医療サービスの多種専門職の充実だけでなく、家族支援や見守りとしての役割、患者を中心にした横断的な連携を強化することに育児支援に強く寄与すると思われた。

A：はじめに

NICU及びGCU入院新生児（以下、入院新生児）の家族の医療面に対する負担や不安は大きい。家族が入院新生児のケアに参加することは、愛着形成や不安の軽減につながり、ひいては乳児虐待予防に貢献すると考える。

初年度は、コメディカル（薬剤師、理学療法士、臨床工学士、放射線技師、臨床検査技師）などの多種専門職が参加し、入院新生児の医療サービスの充実について活動した。それらには、服薬指導、看護師と連携した理学療法の実施、在宅呼吸器療法の支援、放射線技師の頭部外傷の早期発見などがあげられ、潜在的医療サービスを開拓することができた。2年度はさらに活動を深めたので報告する。

B：研究項目と研究成果

当センター病院コメディカル部門で、以下のテーマで2年度の潜在的医療サービスを開拓した。

- ・薬剤師：当センター病院NICUの服薬指導の現状と展望、小児薬物療法認定薬剤師の参加
- ・理学療法士：当院NICUとリハビリテーション科との連携強化～育てにくさを軽減するために～

・臨床工学士：当センター病院NICUの臨床工学士の現状と展望その2、2年間を振り返り症例から考える在宅呼吸器療法の支援

・放射線技師：当センター病院小児科・新生児科における頭部外傷（Abusive Head Trauma）CT撮影の後方視的観察研究の検討。

・臨床検査技師：今後、新生児の聴力スクリーニング検査を中心的に行うことになった。

C：考察

中規模のNICU・GCUにおいて、コメディカルの多種専門職の医療サービスを開拓は、児への医療上のメリットや家族の支援になるばかりでなく、より多くの家族背景を知ることができ、見守りとしての役割が果たせると思われた。加えて、患者を中心にした横断的な連携を強化し、乳児虐待予防の育児支援と発展していくと思われた。

D：結論

コメディカルなどの専門性のある多種専門職の医療サービスの向上や子ども・乳児虐待予防への取り組みへの参加は、育児支援やひいては乳児虐待予防に強く寄与すると考えられる。